

科目名：母性看護学実習		必	2 単位 (90 時間)
(Maternity and Newborn Nursing Practice) 履修年次/時期：3 年次 通年 授業形態：実習 主担当教員：村井みどり（看護師・助産師実務経験等 5 年以上実務経験あり：学生が母性看護学概論や母性臨床看護Ⅰ・Ⅱで学んだ知識や技術を踏まえて看護過程を展開し、対象に必要な看護実践および母性看護の役割が理解できるよう実習指導をおこなう。） 担当教員：久保貴巳子・永谷晃子			
学修目的	周産期にある女性と新生児の健康と支える家族の生活支援の在り方や看護を学ぶ。 CP 1, 2, 3, 4, 5, 6に関連する 科目 No.KNp-308		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP		
	○： この講義・演習・実習と関連がある DP		
到達目標	①周産期にある女性とその家族に関心をもち、看護を行うための学習をしている。 ②周産期にある女性のニーズに気づいている。 ③妊娠期・分娩期・産褥期にある女性の健康保持・増進のための看護を考えている。 ④新生児の胎外生活適応過程を理解し、異常の予防、早期発見するための看護を考えている。 ⑤周産期における保健活動の意義や看護師の役割を考えている。 ⑥産褥期にある女性の産後の回復に向けた生活支援と健康教育ができる。 ⑦新生児の胎外生活適応過程を支える援助ができる。 ⑧妊娠期・分娩期にある女性が安全・安楽に過ごせる援助ができる。 ⑨母親の適応過程と母子相互作用の重要性がわかる。 ⑩母性保健医療チームの一員である責任と役割を自覚し行動できる。 ⑪生命の尊厳や母性の尊厳について、自己の考えを深めることができる。		
授業概要	妊・産・褥婦と新生児の特徴を理解し、看護過程の展開を通して、対象に必要な看護を提供する。 また実習を通して母性看護の役割を理解する。		
授業計画	(実習場所) 横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、横浜市立市民病院、横浜南共済病院、湘南徳洲会病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 (実習方法) ①学修目的・到達目標から各自が設定したビジョンとゴールに向かい、看護を実践する。 ②実践した看護については各自リフレクションし探求する。 ③毎日カンファレンスを行い、学生間で情報共有を行う。 (具体的内容)		

	①母子1組以上を受け持ち、看護ケアを実践する ②正常な経過をたどる妊婦の管理や産褥健診・1か月健診（新生児）について、外来実習での見学を通し理解する。 ③ハイリスク妊婦の治療・看護について見学を通し理解する。 ④母性看護特有の技術については、見学→指導者とともに実施と段階を踏んで実施する。
評価方法	学習活動における評価規準毎に根拠資料を面接で確認し、評価基準に基づいて点数化し、合計点を最終評価とする。 評価基準は実習要項に示しているので、確認しておくこと フィードバックは実習ごとに提示する。
教科書	系統看護学講座 母性看護学1、2 母性看護学概論、母性看護学各論 医学書院
参考書	① 太田 操著；ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版。 ② 平澤美恵子他著；写真で見る母性看護技術、インターメディカ。
オフィス- 連絡先	村井みどり 9：00-17：00 3号館3階研究室 m.murai@kdu.ac.jp 不在時はメールしてください 久保貴巳子 9：00-17：00 3号館3階研究室 k.kubo@kdu.ac.jp 不在時はメールしてください 永谷晃子 9：00-17：00 3号館3階研究室 a.nagatani@kdu.ac.jp 不在時はメールしてください